

半世紀ぶりに神祭奉納復活



三月十六日午後一時から河原上玉来・大道地区で約五十年ぶりに「山の神さんまつり」が行われて神楽の奉納がありました。これは、同地区の文化を掘り起こし、これからのまちづくりに生かそうというもので、代表の岩下松士さんを中心に準備を続けてきたものです。この地区に住む人たちに「山の神さん」と親しまれて、畜産をはじめとした農業の発展を古くから祈ってきたもの。終戦間もない昭和二十五年頃までは、毎年この上玉来地区だけでなく、大畑や大字中の峯の宿地区の人たちも一堂に会して祭りが続けられていました。

上玉来・大道の山の神まつり



写真上 優しい表情の男神と女神一対の山の神さん。その隣には馬頭観音も建立されている。



写真左 大山祇大神（おおやまのかみたいじん）と書かれた鳥居の前に立つ近くの子どもたち。

今回神楽を奉納いただいたのは萩町の橋神社の皆さん。「自分たちだけで神楽を舞い奉納するのが当然ですが、日頃交流がある萩町の皆さんにお世話になってこの祭りができたことに感謝しています。」と皆さんは話され、上玉来集会所にもみんな楽しんで交流会が行われました。高度経済成長時代の人口減少の波は、こうした素朴な文化や交流の存続にも影響を与えてしまったのです。



『原野の子ら』撮影終了

阿蘇の文化・自然・情愛を全国に発信

昨年からの撮影開始した映画「原野の子ら」が多くの方々のご協力により、このほど無事に撮影を終了しました。人の優しさとは何かを問いかけ、農業の大切さをうったえながら、女教師淑子が大きく成長していく姿に焦点をあてたこの映画は、郡内十二方町村一体の取り組みとして、阿蘇の文化や情愛を全国に堂々と発信する意味も持っています。県内での上映は五月上旬の郡内各地での上映を皮切りに、県内や全国で上映されます。各町や村の見慣れた顔や景色がたくさんスクリーンに登場します。皆様、どうぞお楽しみに。



「3月18日午後1時半、高森町の七合目付近で映画のラストシーンを撮影。ところが太陽光不足のため、雲間から太陽が顔をのぞくのを待つスタッフの皆さんはやきもきの連続。そんな気持ちを知ってかわらぬ、その間出演している子どもたちが「だるまさんが転んだ」に熱中する姿を写したのが上の写真。しかし、この元気の良さが阿蘇の子どもたちらしいところであり、この子たちが出演している映画ならばきっと素晴らしい作品になっているだろうと思いました。残念ながら、とうとうこの日の撮影は中止となり、代わりの23日は快晴となり撮影成功したものの、今度は広報紙の原稿締切に間に合わないなど、映画でも写真でも「おてんと」様にはかなわぬとつくづく実感。スタッフの皆さんのご苦勞も良くわかりました。そのラストシーンの概略は次のとおりですが、この感動のシーンは実際の上映でお楽しみください。

ラストシーンのあらまし

赴任当初は3年で熊本市に帰るつもりだった淑子は、子どもたちや地域の人々とのふれ合いから、人としてあるべき姿や本当の豊かさ、教育とは何かを学んでいく。初市から帰る淑子をトンネルで出迎える子どもたち。淑子の手には初市で買ったコブシの苗木がしっかりと握られ、その木には「このコブシが大きくなるまでは子どもたちと一緒に居よう」という、迷いを消した淑子の決意が表れていた。明るい日差しを浴びた淑子と子どもたちは楽しそうに話しながら家路につく。そして遠くには、みんなを優しく見送るかのような雄大な根子岳の姿があった。



3月16日新酒をふるさとの味まつりでおいしくする阿蘇酒造と俳優の皆さん。



初市でコブシの苗木を贈るシーンを撮影中。

平成9年4月5日発行

PUBLIC INFORMATION



野の花と風薫る郷から..

なかもり

THE NEWSPAPER OF TAKAMORI TOWN No.452

APRIL '97 4



さあ飛び立っせ!

高森中学校卒業式



3月10日に高森東中と草部中、3月11日に高森中学校、そして3月24日に町内5校の小学校の卒業式が行われ、児童・生徒たちは先生たちとの別れを惜しみながら、「新たな一歩」を明るい希望を胸に踏み出しました。高森中学校（山室宗敬校長）の卒業式では、「木に年輪、竹に節...この日を一つの節目とし、間近に迫った21世紀の担い手として大きな心で胸を持って頑張ってください。」との山室校長先生の励ましの言葉に、90人の卒業生一人ひとりが胸に響きしめるように真剣に聞き入る姿が印象的でした。



特集

食と農業

平成六年四月二十八日にオープンした草部の「奥阿蘇物産館」(奥阿蘇物産館等管理運営組合、本田登組合長)は、間もなく開業三周年目を迎えます。併設の特産品加工場を活用して、かりんとうや羊羹、ジャムなど、これまで数々の特産品を開発販売してきましたが、新しく「みさお大豆」を使った豆腐作りに取り組み、四月中旬からみさお豆腐料理が新メニューに加えられることになっています。

みさお大豆は加工用としても最高の品種。これをまねおこしに生かさない手はありません。奥阿蘇物産館ではこれまで、みさお大豆を材料にした味噌を開発販売しているところですが、今回豆腐づくりに取り組み、町活性化研究会の田上由紀さんの協力を得ながら豆腐料理のメニュー開発を進めています。

豆腐づくりは井上今朝一支配人が町内で豆腐づくりをされていた方々(井上要蔵さん、工藤マシさん、上田俊一さん)から指導を受けながら習得したもの。井上支配人は「みさお大豆という

素晴らしい素材だから、水やニガリにもこだわりたいですね。」と話しながら慣れた手つきで手作りの豆腐づくり行程が一つ一つ進み、約四時間かけて立派な豆腐が出来上がりました。豆腐作りを見ていた田上由紀さんは「この素晴らしい豆腐を材料にしてメニューが作れるなんて幸せ。これはまちの宝ですね。」と話され、メニュー開発への意欲が更に増したようでした。

その他の特産品開発状況

地域の熱心な取り組みで、これまで様々な特産品の研究・加工・開発が進められています。

◆ほおづき会 ジャム(イチゴ、リンゴ)、柚マーマレード、羊羹(柚、カボチャ、小豆)、◆ひめゆり会 みさお大豆味噌、かりんとう(ハチミツ、柚)、クッキー(とうきび粉、ほうれん草)◆はなしのぶ会 手作り田舎饅頭、たかな饅頭 ◆ハム部会 手づくりハム・地鶏くんせい ◆草部の花づくり農家 はなしのぶ、パンジーなど季節の花々 ◆その他 奥阿蘇おかき、ふるさと米(ミネアサヒ)、乾物、季節の野菜など、たくさんあります。ぜひお越しください。



掘り起こしの

目無くして

みさお大豆の

発見はない

井上ミサオさんは明治十八年七月十五日に高尾野で出生。根っからの頑張り屋、探求心旺盛なミサオさんは大正十年の三十五歳の時、家の裏のコンニャクイモの間に一本の大豆の株を見つけた。この発見が後々素晴らしい品種だと認められ、みさお大豆と命名されることになるのですが、この時もミサオさんが特別にその良さを感じなかったら、今のみさお大豆はなかったでしょう。

草丈も高く、枝張りも良くサヤもたくさん付けている。」と感じました。普通にはない素晴らしいものだという、まさしく掘り起こしの目があったからこそ、今のみさお大豆があると言えます。

特別に目をかけて大切に育てたその一株はミサオさんの目になつたとおり、その年の秋に小粒ながらも色つや良く、実がつま一つ一株分として認められました。永年、大豆づくりに力を入れてきたミサオさんだからこそ、その良さを見出すことができたのです。

この後、特別に充実した粒を選んで年々増殖。その素晴らしさは広く知れ渡ることとなり、問い合わせや種子を分けて欲しいとの申込みが殺到。こんな時、気前の良いミサオさんは「これは日頃信心していた弘法大師さんからの授かりもんだけん、大事に育てなつせ。」と惜しげもなく大豆種子を分け与えました。



地域の力を合わせて
手作り公園・遊歩道・ゲートボール場づくり

奥阿蘇物産館等管理運営組合ではこれまで、役員や地域の皆さんが中心となって自主的にゲートボール場、遊歩道など、物産館と奥阿蘇キャンプ場周辺の整備を行って来ました。現在、草部トンネルの奥阿蘇大橋入り口側の近くに、手作りの公園を整備しています。きれいな水に親しんでいただけるよう、滝や水の遊び場などを作っています。完成は5月の予定。皆様どうぞお楽しみに。

井上ミサオさん

表彰歴(抜粋)

昭和十年 草部村長表彰受賞
昭和十二年 県知事表彰受賞
昭和十五年四月 熊本県農会長表彰受賞
昭和二十九年五月 熊本県産業振興功労者賞受賞
昭和三十一年四月 日本農友会県支部長賞受賞
昭和三十三年十一月 第十六回西日本文化賞受賞

新酒とふるさとの味まつり

たかもこの味
良かですなー
たぐれとの田舎で
絶対調！

今年は何千人？ 年々増えるお客様に嬉しい悲鳴

毎年、好評の「新酒とふるさとの味まつり」は今年で九回目となりました。今年はいくくの曇り空の中にも、レールバスやマイカーでたくさんの方が来場。開会の十二時を待たずに早くから会場の高森駅野外ステージ周辺は、たくさんの方でいっぱいになりました。この催しは地酒の新酒時期に合わせて、色々な高森の味を楽しんでもらおうと町観光協会が主催してきたもの。今年も地元からのたくさんの方の協力があり、県内外からたくさんの方が訪れて場内は賑わっていました。広報インタビューでも、特に福岡方面からのお客様が多くありました。皆さんの感想は、「色々な料理を待つ時間が長かったけど、安い料金とおいしい味、そしてスタッフの皆さんの汗だくの頑張りを見るとしつと我慢の子でした。」や「とにかく満足ですが、もっともっと私たちを楽しませてください。来年も期待しています。」などの声が聞かれました。



原野の子らに出演の俳優・小倉一郎さんも高森の味にご満悦。



食に農機具は欠かせないもの。昔懐かしい農機具も展示。



スタッフは汗だくで悪戦苦闘



本部企画としてバナナの叩き売りも登場。その他、おなじみの風鈴太鼓や高森にわか会場を湧かせた。

- 出展・コーナー紹介
町観光協会会員はもちろん、たくさんの方の個人団体の皆さんの協力により開催。
- ◆ふるまい酒 ◆だご汁 ◆ぜんざい・豚汁
 - ◆田楽 ◆やまめ ◆バーベキュー ◆地鶏焼き ◆駅弁 ◆特産品(野菜・イチゴ・かりんとう・玉子・乾物・醤油・漬け物・清酒・ハム・ソーセージ) ◆奥阿蘇物産館 ◆模擬店
 - (クッキー・手芸・カレー・生あけ・饅頭・餅・おこわ) ◆餅つきコーナー ◆風鈴太鼓演奏 ◆高森社中(にわか) ◆さるまわし劇場

Cooking 大人も子どもも みんなで伝承料理教室



町では食を健康面から考える食生活改善にも取り組んでいます。その一つとして古くから伝えられてきた伝承料理の良さを見直そうと三月九日(日)に伝承料理教室を開催しました。今回は上町公民館で開講し、おはあちゃん達から子どもたちまでが一緒に、太巻き寿司づくりなどを体験し、みんなで楽しい昼食会を過ごしました。

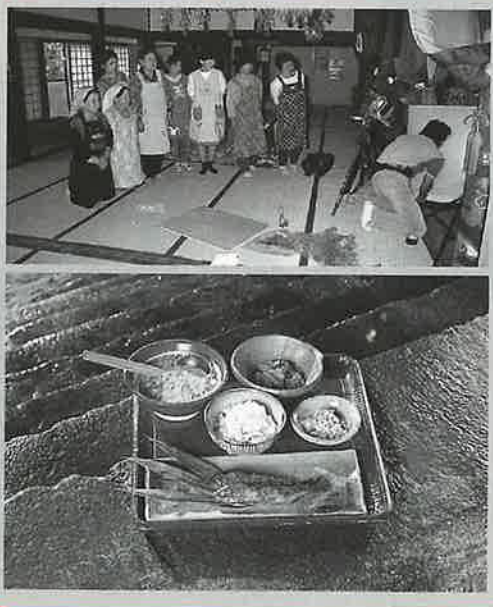


今回のメニューは太巻き寿司、いとこ煮(里芋と小豆)、白和え、菜焼き、だご汁。太巻き寿司では、きれいな梅の花・バラの花・かたつむりの模様ができました。

町活性化研究会 19ボックス活動報告 食のカレンダー六月完成

「味な高森研究会」間もなく発足
食は私たちの生活にはなくてはならないもの。この食をテーマに町活性化研究会では、会員十九名が力を合わせた熱心な研究と、食のシンポジウム(平成八年三月号詳報)や野外田楽会(平成八年十一月号詳報)などで具体的な活動がみられました。

食の掘り起こしから「まちおこし」につなげようというこの取り組みは四月下旬に報告会が行われ、これまでの活動が自主的な活動団体「味な高森研究会」の発足につながり、準備が進められているところ。この活性化研究会の報告会と、味な高森研究会の発足、活動の様子はあらためてお知らせします。





農業者と先生の勉強会

農業を学ぶ



苦しい農業に立ち向かう前向きな取り組み 見直される環境に優しい自然農法

みんなで考えよう 農業の大切さ



花き・畜産農業

宇藤康博さん・色見

肥育素牛の選定と飼育方法を熱心に研究。畜産で出た堆肥と水田農家の稲ワラを交換して経費を節約しながら良質の堆肥を作り出し、花の栽培に活用している。「農業はやり方次第。やればやるほど応えてくれる」と、しつかりとした精神が光る。



スターチス（シニアータ）摘みを体験。ピンクと紫が美しい。

私たちが生きていく上で最も大切な食。そして様々な食材を作り出す農業の重要性は言うまでもないことです。高度経済成長などによる社会生活の変革は結果的に「農業離れ」を引き起こし、農業の衰退につながってしまいました。

これは無計画な多額の設備投資や化学肥料、除草剤、農薬の多用による手をかけずに高収益をあげるといった農業が、結果的には経費の増高や景気の変動に影響されやすい足腰の弱

いものであり、環境破壊をも引き起こす危険性もはらんでいたということです。これらの反省に立ち、しっかりとした経営分析と技術習得により、土づくりをはじめとした農業の基盤を見直し、この動きが全国的に高まっています。

その一つとして、二月二十七日、県農業改良普及センターの事業として農業体験研修が開催されました。この研修会には町内各学校の先生と町の若手農業者が参加。町内の農家訪問や白石

久美子さんの「こだわりの完全無農薬農業」体験発表（本誌平成八年三月号に掲載）があり、熱心な研修が進められていました。

研修に参加された先生たちは食の自給生産体制確立の大切さを再認識。また、新技術の導入、研究と「ムリ・ムダ・ムラ」の排除による計画的農業実践によって、難しいと言われる農業にあえて真っ正面から取り組む農業者の熱意に感動。農業の明るい未来を確信されたようでした。

特集 食と農業

アグリウォッチング

新時代の

環境保全型農業

後藤武さん・上色見

EM菌など微生物の有効活用を実践。繁殖牛畜産から出た堆肥を基にして土作りに力を入れ大根生産などに生かす。それだけでなく新種の培養など微生物研究にも余念がなく、自作の木酢抽出プラントなどは、まるで化学工場の様。高度な科学的知識に研修参加者は圧倒された。



施設園芸農業

幸野道治さん・草部

祖父の代からの土地集積と基盤整備を基礎として、明確な経営方針と目標を持って確固たる農業を推進。温度調整や日照など全自動のハウスを導入して良質のメロンと花づくりを進めている。平成8年3月、日本農業賞・特別賞を受賞。（本誌平成8年3月号既報）



先生たちの感想（抜粋）

■最先端の農業を知って農業のイメージが大きく変わった。この体験を授業に生かしたい。

■花切りやイチゴ摘みなどで実体験でき、農業者の皆さんの生の声が聞けて良かった。

■楽しんで就農されている様子がよくわかった。これからの農業の明るい未来が予見できる素晴らしい研修だった。

■自分なりに工夫研究され、それを即、実行される精神……そしてこだわりと個性溢れる農業に感動！

■子どもたちを対象とした研修もお願いしたい。

■植え付けから収穫、販売まで一連の農作業を体験しながら交流する機会を作って欲しい。

■わが家が農業だが実体験はない。やっぱり何でもやってみたいと思う。

■環境を大切にしたい農業への取り組みは素晴らしい。

■食糧として国は成り立たない。日本の農業をみんなで守らなければならない。

農家の皆さんの感想（抜粋）

■少量でも質の高い作物を作りたい。

■バクチではなく地に足が着いた農業をしたい。

■とにかく何事も勉強が大切。

■子どもに農業はきついと思わせたくない。

■どうせやるなら収益もあげて、ゆとりある明るい農業を目指したい。

■気候など地域の特長性を考え、何が求められているのかという市場研究（マーケティング）を怠っていないこと。

■先生たちが農業に理解いただいていることがわかって嬉しかった。

■農業をつまらなくしたのは私たち農業者自身。農業に誇りを持てるように努力していきたい。



自作のシステムで木酢を抽出

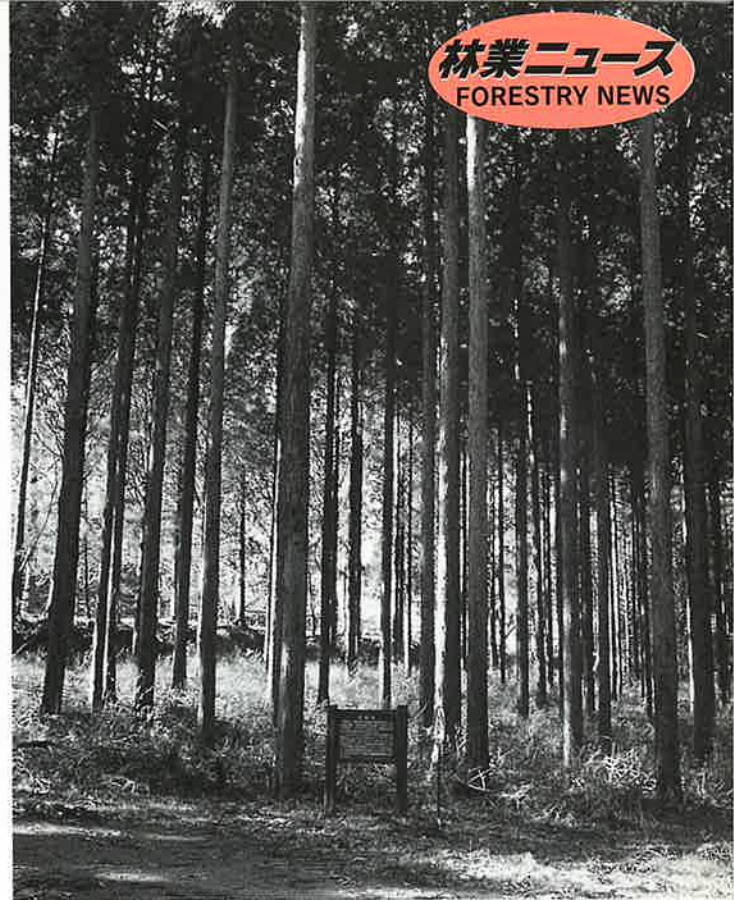


施設園芸農業

林 淳一さん・高森

「我ら青年農業者！」と農業に自信と誇りを持ち、若手農業者のリーダー的存在として活躍。葉たばこと共に年間を通じての就農への意欲を持って取り組んでいる。研修参加者は味見（無農薬）しながら、イチゴ狩りを楽しく体験。





ナンゴウヒの里 高森で研究会が発足



垂直で完満（上下の直径の差がないこと）、病気にも強いナンゴウヒ。その優秀性が挿し木の手法で代々衰えることなく伝えられてきました。この素晴らしさは多くの人が知るところですが、これからは「量より質」の時代。国産材時代の再到来が十分に予想され、これからはこの需要が増えていくものと期待されています。

3月3日、休暇村南阿蘇でナンゴウヒ研究会の発足式（初代会長 県業研究所長小原文悟氏）が行われました。

これは県業研究指導所が主催したもので、県内外から100名の参加者を集め、ナンゴウヒの研究と母樹林などでの現地研修も行われました。

高森の誇れるブランド ナンゴウヒ



品種確認したときの感動

昭和二十八年の熊本大水害の後、当時の佐藤敬二教授の命を受け、私は学生数名と共に、阿蘇地域を中心にヒノキを調査して回りました。その中で、高森町役場のお手配と馬原廣雄さんの案内で山を見て回っている時、きれいに「一粒」が揃った林分を発見。おたずねすると、挿し木で生育したという言葉にビックリした訳です。当時は学会でもヒノキの挿し木は知られておらず、帰って佐藤教授に報告しても信じてもらえないというようなことでした。

それから、佐藤教授と共に再

ナンゴウヒの品種確認 名付け親
九州大学名誉教授 宮島 寛氏 来町講演

度訪れ、調査研究して、まったく新しい品種だと確認。私たちはナンゴウヒと銘づけました。

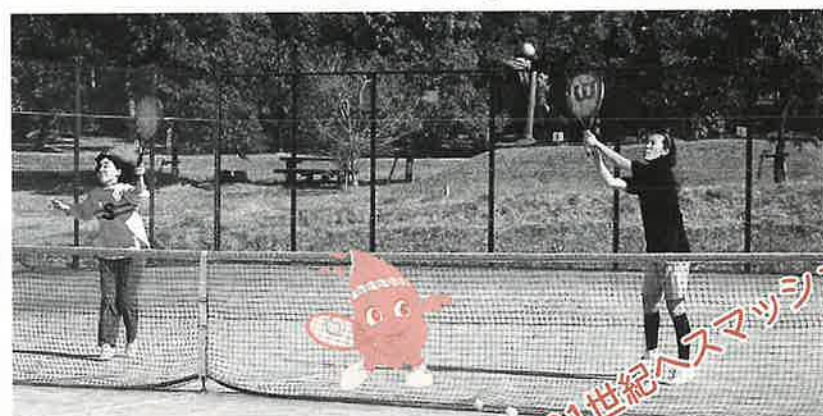
それから調査を継続しましたが、阿蘇神社の勢力が及んだ範囲には、昔からこの挿し木手法の技術が当たり前として永く伝えられていることもわかったわけです。

今、猿や羊のクロンが話題に上っていますが、林業はもともクロン技術の世界。今でもヒノキの挿し木品種はこのナンゴウヒしかなく、ヒノキの基準木にもなっています。

他にない素晴らしい品種であるナンゴウヒを誇りとして、これから益々普及を目指しましょう。この研究会が、当地、阿蘇南郷の高森で発足されたことを嬉しく思います。

テニス教室のお知らせ

家族みんなでスマッシュ！
ふれ合いタイムもいいですね



本年度の取り組み

国体テニス競技のメイン会場「高森町民体育館」の竣工に全力を尽くし、県テニス協会や久木野村との連携により、テニス教室、審判員養成講習、審判員認定、ボール・スコア補助員養成などを実施していきます。

次のとおりテニス教室（無料）を開催します。事前申込みは不要です。ラケットとボールは貸し出します。初心者の方でもお気軽に参加ください。ご家族連れでも、もちろん結構。楽しい一時をお過ごしください。

■とき 四月二十七日（日） 六月十五日（日）

九月二十一日（日） 午後一時～三時

■ところ 休暇村南阿蘇テニスコート（四面使用）

高森町役場 国体推進係
2-1111

世界強豪24ヶ国が、熊本に集結。



1997年 男子世界ハンドボール選手権大会・熊本

前売り入場券 発売中
町教育委員会でもお買い求めください

5月17日から6月1日まで、熊本市、八代市、山鹿市を会場にして、男子世界ハンドボール選手権大会が開催されます。ヨーロッパで盛んなサッカー。その練習が冬季などできない時の室内競技として発達してきました。ダイナミックなプレーをお楽しみください。

高森の誇れるブランド ナンゴウヒ

自然を守る大切さを みんなで考えよう



野の花・野草を見つめる 良い季節
野草園とビジターセンターにぜひどうぞ

さあ四月 すべての生き物が生き生きとする季節
冬の極寒に耐え じつと温かい日差しを待ち続けた
野の花たちも 少しずつ芽を吹き 花開いて
私たちを楽しませてくれる季節がやってきました
でも そつと見つめるだけにしてあげましょう
やつと息吹いた命なのですから
けなげに生きる はかない命なのですから

自然保護



阿蘇に咲く 貴重な
ハナシノブを守ろう

六月頃に咲く青紫色の可憐な花、はなしのぶ。
この花は、世界中で阿蘇の高森と波野の山や原野の限られたところにしか生えていません。
とつとも少なくなつたはなしのぶは、数が少なくなつてしまひ、今みんなでも守らないと、自然に育つものは永遠にこの地球上から姿を消してしまいます。
このように、かけがいのない草花が、私たちのふろさとで生きていることを誇りに思い、いつまでも阿蘇でその美しい姿を見せてくれるように、みんなで大切にしたいものです。

議会だより

Minutes from
Town assembly meeting

平成九年第二回臨時会
二月二十五日

平成九年第一回定例会
三月十二日、十九日

議決されたおもなもの

平成九年 第二回臨時会

◇県議会議員阿蘇郡選挙区定数の現状維持を求める請願書が採択され、県議会に提出されました。

平成九年 第一回定例会

◇固定資産評価審査委員会の委員の選任について

後藤仁氏任期満了により、後任として野崎保男氏（大字高森一六三六番地）が選任される事が承認されました。

◇町営住宅条例の制定について

高齢者や真に住宅に困窮する者の居住の安定を目的として公営住宅法が改正されたことに伴い、これまでの条例を廃止し、新たに条例が制定されました。これにより主に入居資格と家賃が改正されることとなりますが、平成七年度以前に国の補助を受けて建設した町営住宅入居者において現家賃に比較して新家賃が上回った場合は、三年間の負担調整により円滑な新家賃への移行が行われることになっています。

◇町営施設使用料と簡易水道使用料の改正について

四月一日から施行された消費税改正により、水道使用料と町が管理運営する次の施設の使用料が改正されることになりました。

林業総合センター・林業センター・基幹集落センター・奥阿蘇キャンプ場・生涯学習施設・小・中学校施設・町民センター

◇高森温泉館の家族風呂料金改正について

管理費の増高への対応のため、家族風呂料金が一時五〇〇円から一〇〇〇円に、また三〇分ごとの時間超過料金三〇〇円が五〇〇円に改正されることになりました。

本年度予算の概要

町振興計画の基本構想（平成11年度から15年度までに町が進むべき計画）は、来年度の平成10年度につくります。そのための準備を本年度から進めていきます。

■議会費関係 モンタナ州カリスベル市との友好関係推進のため全議員の研修旅費を計上。（半額個人負担、残りはふるさと創生資金利子運用と一般財源）

■総務費関係 □合併四十周年記念行事関係に暫定的に百万円を計上。記念行事は町民体育館竣工、温泉館三周年に合わせ十一月中旬頃に数日間集中的に行う。

□高原森林文化村構想を進めている、仮称「健康等休養施設」の平成十年度着工を目指し、その旧野尻小の造成、測量と実施設計費用を計上。 □湧水館周辺整備を継続し、蔵地区の水源ボーリングを実施。 □地籍調査は本年度も尾下地区の一部三八九km²を実施。

■民生費関係 □子どもや若者、働く女性、障害者を持つ方、お年寄りなど、すべての人が安心して暮らせる活力とゆとりを持てる、やさしい町づくりを推進。

□民間ボランティアなどの社会福祉への貢献に対し、社会福祉基金利子から助成を行い、ボランティアの育成を図る。 □ホームヘルプ活動の推進。 □在宅看護相談の充実、在宅介護支援センターの運営機能強化を図る。 □国民年金推進員を設置し、保険料の収納率向上を

◇平成八年度一般会計補正予算 歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ一億七千三百三十四万五千円を減額して、総予算が四十九億七千九百二十万九千円となりました。

単位:千円

特別会計名	既定額	補正額	予算額
国民健康保険	827,600	16,548	844,148
老人保健	933,841	35,177	969,018
住宅新築資金等貸付金	10,880	140	11,020
誘致工業用地取及び用地造成事業	6,281	168	6,449
農業用水供給事業	28,221	0	28,221
高森町鉄道経営対策事業	16,828	△358	16,470

◇平成九年度 特別会計予算

単位:千円

特別会計名	予算額
国民健康保険	796,977
老人保健	1,075,180
住宅新築資金等貸付金	2,661
誘致工業用地取及び用地造成事業	5,919
農業用水供給事業	25,986
簡易水道事業	368,466
高森町鉄道経営対策事業	13,699

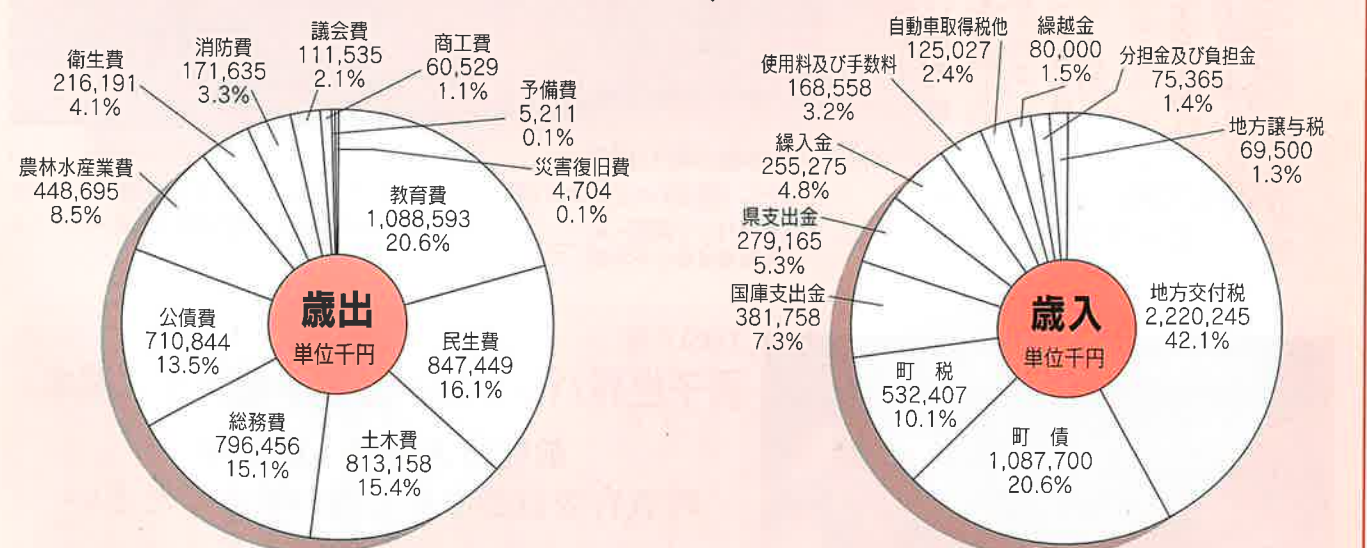
図る。また、年金相談や啓発活動も積極的に進めて保険料負担者と年金受給者の均衡を図る。

■衛生費関係 □運動・栄養・休養のバランスがとれた健康づくりを推進。 □合併処理浄化槽の普及整備を図る。 □エンゼルプランにより、保育、母子保健医療など幅広い育児支援策を進める。また、母子保健推進員三名の設置により、少子化にも対応する。

■農林水産費関係 □地域独自の具体的な目標による農村作りを推進。 □農林業の担い手、労働力対策と高品質、低コスト生産、計画的な農業によるゆとりある農業を目指す。 □農村女性グループ支援事業とレディースファーム体験研修などにより、女性がいそいそと農業に従事できる施策を展開。 □牧野火入れ助成、防火帯設定事業の実施により畜産、草地の保全と野山の自然環境を守る。 □認定農業者の支援体制整備。 □転作による新生産調整の目標達成と補償を推進。 □農道の整備促進。

□奥阿蘇キャンプ場にバンガロー三棟を建設。 □広域基幹林道阿蘇東部線の推進と林道鍋の平線三〇〇mの改良を計画。 □流域間伐対策事業により機械と作業道を整備。 □林業構造

平成9年度 一般会計当初予算 52億7,500万円



本町の予算編成については、町税と地方交付税の伸びが期待できず大変厳しい状況にあります。高齢化社会の到来など地域福祉と住民生活に関連する分野での地方自治体の役割は増大してきます。このため、更に徹底した節減合理化を行い、最重要課題に対して重点的に予算配分を行いました。

改善事業で大谷線三〇〇mを整備。（総延長一〇〇〇mを計画）

■商工費関係 □商工業の安定的發展、近代化、活性化のための有効活用を促進。 □商工会が県指定を受けて実施した中小商業活性化事業の拠点づくりを基本に街づくり計画を推進。

□高森峠自然公園をはじめ、既存の観光施設の修繕、保守管理と新規に越敷岳登山道の一部舗装や羅漢山までの遊歩道を調査設計。 □野尻川育成キャンプ場のトイレ助成。 □九月一日から十一月十五日まで、ディスプレイネーションキャンペーンと称した、観光客に町の歴史や文化を紹介するイベントを実施。

■土木費関係 □町道の新設改良、点検、舗装、修繕、交差点改修、歩道整備、美化側溝工事などを実施。 □町道の草刈り助成をメートル当たり十五円から三十円に増額し、道路環境の整備を図る。 □既存の町営住宅の改修と下町B団地の建て替え事業計画のための基本設計を行う。

また、旭A団地に四戸を新築。

■消防費関係 □消防団員の士気高揚とあわせ、人命救助などで身軽に活動できる消防作業衣を整備。 □消防消火施設整備のため防火

水槽を設置。 □防災行政無線屋外局を野尻と草部管内に二基ずつ設置。

■教育費関係 □活力と個性に満ち、地域に適應した学校づくりによる教育環境を整備。 □「いじめ」と「不登校」の解消に向けた教職員対象の指導、講演会を実施。 □高度情報化社会への対応として、教育用コンピュータを平成十一年度までに全学校に整備するための計画を策定。 □学校給食の衛生面において万全の対策を講じる。

□老朽校舎など、学校施設の修繕と教育環境の改善に努める。

□学校統合後の老朽施設、老朽教職員住宅の解体を実施。

■社会教育 □生涯学習の推進。 □人権学習の推進については、基本法（時限立法）の期限を迎え、新法において委託事業から補助事業への変更を見込み、そのための予算を計上。 □大阿蘇絵画展、町民体育祭、文化祭、町民音楽祭などにより、文化の薫り高い町づくりを目指す。

□国際化事業については、カリスベル市との提携に向けた体制づくりに取り組む。 □平成十二年の「全国グラウンドゴルフ大会」の本町開催に向けた実行委員会を設置する。

■国民体育大会関係については本誌九ページ、原野の子ら関係については二十四ページに掲載

南阿蘇鉄道が 運賃改定

歯止めがかからない 利用客の減少
経常経費の節減
新規企画など 経営努力にもかかわらず
苦しい経営を迫られる

高森・立野間
四三〇円が 四七〇円に改定

皆様方の生活の足として発展してきた南阿蘇鉄道。おかげで本年創業十一年目を迎えています。

経済と社会情勢の変化による少子化とマイカーの増加などにより、利用客は年々減少し、経費の節約と新規の事業推進などの努力に努めてまいりましたが、依然として厳しい経営を続けています。

これらの情勢の中、やむを得ず平均9%の運賃改定をさせていただくことになりました。

今後も諸経費を抑えながら収入の拡大を図るために有効な施策を執行し、創意と努力を重ねてまいりますので、地域の皆様方におかれましては「マイレール」南阿蘇鉄道を可愛がっていただきますよう、利用の増進などにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

南阿蘇鉄道株式会社
TEL: 2-1219

皆様方のご協力・ご理解を
切にお願いします

町職員人事異動

町では四月一日付で、職員の人事異動を行いました。()内は旧係名
なお、事務改善を目的とした課設置条例の一部改正により、新しく町民福祉課に同和対策係を設置し、国体推進係を教育委員会から企画課に移管しました。

- 総務課 ▼行政係長 廣木富八 (広報統計係長) ▼管財係長 甲斐利男 (地籍調査係長) ▼広報統計係長 岩下公治 (広報統計係) ▼広報統計係 田上浩尚 (農地係) ▼熊本県出向 東幸祐 (町民係) ▼総務課付熊谷征男 (収入役室長兼会計係長) 企画課 ▼国体推進係長 山村将護 ▼国体推進係 安方含 ▼企画係 河崎みゆき (教委学校教育係) ▼町民福祉課 ▼課長 渡邊哲郎 (総務課長補佐兼行政係長) ▼町民係長 中尾篤志 (保健衛生係長) ▼町民係 除田梨香 (新規採用) ▼福祉係長 後藤三治 (県出向から帰庁) ▼福祉係 松本満夫 (会計係) ▼同係 堀田美幸 (草部保育園保母) ▼同和対策係長 二子石衛 (福祉係長) ▼農林振興課 ▼農業振興係長 佐伯実範 (農地係長) ▼農業振興係 阿部恭二 (土木係) ▼同係 二子石誠 (新規採用) ▼農地係長 田上美男 (農業振興係長) ▼農地係 岩下徹 (地籍調査係) ▼林業振興係 丸山雄平 (管財係) ▼建設課 ▼建築係長 岩下昭久 (教委学校教育係長) ▼土木係 佐藤武文 (農業振興係) ▼税務課 ▼課長 二子石範男 (議会事務局) ▼固定資産評価係 石田昌司 (新規採用) ▼地籍調査係長 色見継治 (福祉係) ▼地籍調査係 甲斐峰雄 (農業振興係) ▼水資源対策課 維持管理係長 瀬井公吉郎 (建築係長) ▼商工観光課 ▼課長 桐原一紀 (商工観光係長) ▼商工観光係長 橋本和則 (野尻出張所住民係長) ▼収入役室 ▼室長兼会計係長 岩下紀久雄 (税務課長) ▼会計係 高木恵美子 (議会事務局) ▼野尻出張所 ▼所長 岩下健治 (野尻出張所長) ▼庶務係 ▼野尻出所 ▼所長 田上眞一 (商工観光係) ▼住民係長 工藤英二 (林業振興係) ▼議会事務局 ▼事務局長 岩下靖彦 (町民福祉課長) ▼保育園関係 ▼色見保育園 ▼保母 三森通江 (草部保育園) ▼給食調理係 野尻秀子 (野尻保育園) ▼下美智 (色見保育園) ▼保母 興和とめ子 (野尻保育園) ▼保母 岩下ツエ (色見保育園) ▼教育委員会関係 ▼事務局長兼施設管理係長 岩下弘三 (同事務局長) ▼学校教育係長 長尾和博 (教委施設管理係) ▼学校教育係 荒牧久 (企画財政係) ▼高森東中学校給食共同調理場 本多小夜子 (高森中学校用務員) ▼高森小学校給食共同調理場 原克子 (高森東中学校給食共同調理場) ▼同 橋本野和則 (新規採用) ▼退 職 合志盛隆 (草部出張所長) 谷川元清 (管財係長) 甲斐昭文 (町民係長) 甲斐達志 (固定資産評価係)

この社会 あなたの税が生きている

確認してください 固定資産課税台帳
固定資産課税台帳の縦覧を次のとおり行います。この期間内に皆さんお手持ちの土地や家屋、償却資産の資料と役場の固定資産課税台帳の内容を照合確認してください。(閲覧料無料)

■縦覧期間 四月二日(水)から四月二十一日(月)まで。(土・日を除く)

■時間 午前九時から午後四時まで。

■場所 役場税務課窓口
草部・野尻出張所
(償却資産課税台帳の縦覧は、税務課窓口のみで取り扱います)

◎特に、農業者年金の経営移譲年金受給の対象となる方は、年金申請の際に、いろいろな問題がおきないように、必ず縦覧してください。(台帳目録と現況地目、名義など。)

その他、固定資産に関するおたずねは…
税務課・固定資産評価係
TEL: 2-1111 内線154
までお気軽にどうぞ。

税の広報



もしも 税申告に
間違いがあったときは？
所得税や消費税の確定申告に誤りがあったときは、すぐに次の手続きを行ってください。

●申告をした税額が少なかったり、還付金額が多すぎたとき
「修正申告」を行ってください。自主的に修正されると、過少申告加算税一〇%はかかりません。

●申告税額が多すぎたり、還付金額が少なかったとき
「更正の請求」をしてください。更正の請求ができる期間は、通常平成八年分の所得税の確定申告の場合は平成十年三月十七日まで、平成八年分個人事業者の消費税の確定申告については平成十年三月三十一日までとなります。

その他、確定申告を忘れていた場合は申告期限を過ぎていても速やかに確定申告を行ってください。自主的な申告は無申告加算税十五%が五%に軽減されます。

阿蘇税務署
TEL: 0967-22-0551

浄化槽法定検査項目が追加 手数料の変更について

浄化槽の維持管理の適正化、合併処理浄化槽の設置推進について、皆様のご理解をいただき感謝申し上げます。

浄化槽の法定検査については、法定検査機関である社団法人熊本県浄化槽協会において実施されているところですが、四月一日から次のとおり検査項目などの変更がされましたのでお知らせします。

ただし、本年、平成九年度にこの対象となる浄化槽は、原則として五十一人槽以上の単独または合併処理浄化槽です。

■検査項目の追加
浄化槽法第十一条に基づく浄化槽の水質検査において、BDO検査を追加して実施。

■検査手数料
BDO検査を実施する浄化槽一基あたり現行の検査手数料に四千円を加算。

■実施開始時期
平成九年四月一日から

県・環境公害部
廃棄物対策課

若い人も老後のことを考えましょう

国民年金だより

◆国民年金の保険料は納めましたか？
保険料の納付は口座振替で
日本国内に住んでいる二〇歳以上六〇歳未満の自営業者などの第一号被保険者は、国民年金の保険料を納めなければなりません。保険料を納めないでいると、老齢基礎年金だけでなく、障害基礎年金や遺族基礎年金などが受けられない場合があります。自分の老後や障害者、遺族になった時に備えて国民年金の保険料を必ず納めましょう。

保険料の納付には口座振替が便利です。預金通帳、印鑑をもって役場の国民年金担当、または預金口座のある金融機関にお申し込みください。

保険料を納めたいけどどうしても納められない
経済的な理由でどうしても納められないことができない。そんなときのために申請して認められれば、保険料の納付が免除される制度があります。免除される期間は、申請のあった月の前月から年度末までとなっています。一年分(平成九年四月分から平成十年三月分まで)の保険料免除を希望される場合は、五月末までに役場の国民年金担当係で手続きをしてください。なお、保険料が免除された期間については、将来受け取る老齢福祉年金の額が実際に納めた場合の三分の一になります。経済的余裕ができたときに十年以内であればその期間分の保険料をさかのぼって納めることができる追納制度もあります。

◆国民年金の保険料改定のお知らせ
四月から保険料は月々一万二千八百円になりました。一年分の保険料を前納すると十四万九千八百九十円となり、月々納める場合と比べ、三千七百十円の割引がありますのでご利用下さい。

◆四月は就職・転職など異動が多い季節
就職や転職などでの異動があったときは必ず届出をしてください。届出をしなかったり遅れたりすると、年金が少なくなったり受けられなくなる場合があります。

町民福祉課 国民年金担当 TEL: 2-1111

春の交通安全運動

四月六日～十五日

シートベルトの徹底着用
お年寄りと子どもの交通事故防止

TAKAMORI Police Station 高森警察署だより

高齢者の運転免許証返納制度
高森署第一号の返納者に
甲斐 眞一さん



先月号でお知らせした高齢者の運転免許証返納制度。本町(高森管内)の第一号として甲斐眞一さん(下町)が免許証を返納され、二月二十八日高森警察署の安竹署長が「安全運転経歴証書」を授与して、甲斐さんの永年の安全運転と勇気ある決断を称えました。

高齢(65歳以上)ドライバーの皆さんの中には、自己の運動能力や運転技能の低下を自覚し、運転に不安をいだいておられる方も少なくないと思います。県警ではこのような方からの相談をお受けしています。返納の際は運転免許証以外、特に何もありません。

返納制度などの詳しいことは…高森警察署交通係まで
お気軽におたずねください。 TEL: 2-0110

消防なんでも南部分署

消防署だより

防火ポスターへの応募
ありがとうございました

高森町内の入賞者 (郡内で60点を表彰)

- ◆銀賞 興和 隆 (高森小) 住吉桂志 (色見小)
- ◆銅賞 岩下祥子 (高森小) 勝木麻矢 (色見小)
- 宇藤高大 (色見小)

火災の通報は119番 子どもさんへの指導を今一度

火災が起きたら局番なしの119番に電話すると広域消防本部につながり、火災が起きた町村にすぐに伝える仕組みになっていますので、必ず119番をダイヤルして消防署に連絡して下さい。

119番通報は誰もが知っていることですが、いざ火事が起きたらあわてるもの。特に小さい子どもさんなら尚更です。通報が遅れたり消防署以外の所に電話したりして、正しい情報が伝わらないと大変です。火災はいつ起こるかわからないもの。各ご家庭や学校、園などでの指導を今一度お願いします。

阿蘇広域行政事務組合消防本部

南部分署 TEL: 2-9034

家庭教育の実践のために



すこやか子育てフォーラム

真剣に考えよう 子育ての大切さ

この広報誌でも毎回お伝えしている家庭教育の大切さ。誰もがその重要性はわかっているものの、実際にどれだけ具体的に子どもと心をふれ合わせているのか。また、親や大人は家庭や社会で如何に正直に生きているのか、その生き様を堂々と子どもたちに見せることができているのか。と私たちは真剣に考えてみる必要があります。

子育て支援に 新規事業を導入

町では「まちづくりは人づくり」を念頭に、家庭教育の重要性を強くうたえており、幼児教育面で町民福祉課が、また、生涯教育と社会教育面では教育委員会が取り組んで、それぞれの特性を生かし連携を図りながら一体となつて進めています。

町では平成八年度から、地域保健推進特別事業に取り組みました。これは厚生省事業の一つで、本町では平成九年度までこの事業を全町的に展開していきます。具体的には、母子保健を観点として、安心して子どもを生み育てる環境づくりを目的にして、「子育て支援システム」の整備を進めることにしています。

基調講演 講演の要旨



熊本県立大学 総合管理学部
教授 石橋 敏郎

人は誰でも最初からやる気がない者は居ません。勉強でも何でも何かに一生懸命になりたいという気持ちを大切にしなければなりません。親は子どものやる気を見出す力をつけると共に、家庭での対処の仕方がまずいと、とんでもない思わぬ悪い結果に結びついてしまうと、肝に銘じなければなりません。

子育ては本当に難しいものですが、ただ嘆いているだけではだめなのです。常に問題意識を持ち、日々の「親らしい」具体的な行動が大切であり、心の教育が重要だと認識しましょう。

いじめの本質とは？

いじめは社会の価値観に大きな

原因があります。簡単に言うと「えらい人」と「えらくない人」とに区別されてしまっている現状があります。勉強ができるとかできないとか、金持ちであるとかないとか、そんな基準で人は判断されているのです。もし「あいつはダメだ」と、「えらくない人」の烙印を押されたらどうでしょう。きつとやる気も何もあつたものではなく、人生に対して悲観的になつてしまふことは当然です。

ですから、そのはけ口が自分より弱い者に向かうことになり、また服装でも髪型でも人と違うことをして「目立とう」という心理につながりますが、結局それがまた、みんなに受け入れられず「やっぱあいつはダメだ」と判断されてしまふという悪循環につながります。そして、社会だけでなく家庭でも「だめな奴」の烙印を押されたらどこにも行き場はなくなりまふ。これらはいじめの加害者にも被害者にも言えることです。

人より劣っている人から見られていて考える人間の心理

たくさんの人と接する中で、自分はこの中で劣っている。劣っているから見られているのではないかと心配が誰にでもあります。これは自意識過剰といふもので、結論から言うとお

☆特に三歳までの間は、子どもにスキンシップで愛情を注ぎ、適正、的確なしつけをしましょう。

☆時間は短くても、子どもとの対話を欠かさず続けましょう。



瞳を見つめて

「先生あのね。」

子どもはお話が大好きで嬉しいこと、困ったことなど話をしてくれます。「なあに？」と顔を合わせるとアレアレ？ 瞳がキョロキョロ。「こちを見て」と言ってもすぐにキョロキョロ。ちょっと待つて下さい。話を聞いてあげる私たちおとなが、いつも何かしながら「なあに？」と答えていますか。

私たちおとなにとって大切なこと、「子どもの瞳の高さ」をつい忘れがちになります。ふれあう時間の多いお父さん、お母さんにも大切なことなのです。小さなふれあいでも、子どもの瞳を見つめましょう。

熊本県教育委員会発行「すこやか家庭教育ヒント集」から要約編集掲載。

子育ては 家庭・学校 保護者会 地域一体の 取り組みから

意見交換会から

▼子どもが多いのは、活気があり明るくなることで、何につけても良いこと。▼子どもにかまわない親。又かまひ過ぎる過保護な親も多い。▼昔もいじめはあつた。しかし、死に至るような陰湿ないじめはなかった。人の痛みを知らないことが問題である。▼いじめに負けない心たくましい子どもを育てたい。▼指示しないともできない子ども。そういう主体性のない子どもを育てたのは私たち大人の責任だと認識しよう。

▼便利な生活に慣れつこの私たち。子どもたちには地域活動やボランティアなど、とにかく実体験を多くさせよう。外に出て元気に遊ぶ中から、人との付き合い方も学ぶことになる。▼子どもたちを主体とするPTA活動も考えてみよう。

石橋先生のまとめ

あくまで、子育ては適正、的確なしつけをはじめとする家庭での責務だと認識しましょう。子どもは親とは別の人格者です。親の「好み」と「正しいこと」は別物だと理解し、親の好みを押しつけないことが大事です。子育ての大切さは皆さんおわかりのとおりですが、親はもちろん、学校、保護者会、地域が一体となつて具体的な人づくりの行動を実行しなければなりません。このフォーラムがその一歩となつて欲しいですね。

色見小学校体育館
三月二日十時から



私の弁当事件から

互い誰も注目していませんし、自分に自信が持てないのが人間ですが実際に劣っていることなんてないのです。この心理は裏を返すと、誰もが「注目されたい」認められたい」という心理を持つていてということであり、それぞれが持つてくる良さを認め合い、互いに高まり合うことが大切なのです。

そういつた中から自信と誇りが生まれ、堂々と社会で生きる力が育まれます。もちろんこれは家庭はもちろん、社会全体で育てていかなければなりません。

このことを、もう少し具体的に強調してみたいと思います。

私は南小国で生まれ育ち、父の仕事の都合で山間部の小さな小学校から熊本市内の大きな小学校に転校しました。私は魚の塩ダラが大好きで、いつもそれを弁当に入れてもらつていたのですが、それが同級生たちには珍しかったらしく、昼食時はみんなから注目され、同じクラスだけでなく全校生徒が見に来たというほど、たくさんの子どもたちが毎日私の弁当をのぞきにきました。(笑)

さて、もし今、この「事件」が高森で起きたらどうなるでしょう。その子は「お母さん。みんなが僕の弁当を見て笑つたよ。

もう学校なんて行きたくない！」と不登校を起こすかもしれないね。しかし私は不登校にはなりません。これは私の育つた環境がそうさせたのです。

つまり、「弁当のおかずのことなんかどうでもよい」つげな事なことなんだ。人生にはもっと大事なことがある。ということ、阿蘇の雄大な景色や小さいときから心からふれ合つていただいた先生や地域の皆さんが私に教えてくれたのです。

《人は環境によつてつくられる》…このことは間違いない。に自信があればどうにでも生きられますし、光る人間はどこにいても光るのです。問題はどうかやたら心の広い、光る人間を作れるかだということです。

みんなの力で子育てを

少子化と結婚しない人の増加。これが今後いろんな問題につながっていくでしょう。しかし、子どもが少ない理由は教育などに費用がかかる現実があり、結婚しない理由は互いに魅力を感じ合うことが少なくなったことにあると思います。

子どもを産むのは女性です。その女性が安心して産み育てられる環境をつくること。そして、家庭はもちろん、社会全体で見守り育てていくことが大切です。



お父さん、お母さんのガンバリ いつも見えています 私たちのことも見ていてください

お父さん、お母さん。毎日の仕事本当に苦勞さまです。

ほくたち、私たちのために一生懸命がんばつてくれて本当にありがと。

汗を流して頑張つているお父さん。エプロンに料理の匂いがしみついているお母さんのがんばりを、ほくたち、私たちはいつも見えています。

疲れているから休みの時はゆっくりしてください。そしていつもできないことで楽しんでもらいたいと思います。

でもね。たまにでいいから、月に一回でもいいから一緒に遊んでください。キャッチボールでも、買い物でもドライブでも何でもいからね。お父さんたちが遊びに行く所にも一緒に行ってみたい。

お父さん、お母さんのがんばりに負けずにこれからも一生けんめいにがんばります。

これからもほくたち、私たちが見守つてくださいね。





まだまだ若きやもん 明るく楽しい生活を

シルバーファッション研修会

3月19日、益城町でシルバーファッション研修会が行われました。これは高齢になっても着るものにも気を配り、明るい色や現代的なファッションを楽しみながら、生き生きとした生活をしようというもので、「自作自演のファッションモデル」の皆さんの舞台での立ち振る舞いに、場内から大きな歓声が上がっていました。



本町で郡ホームヘルパー研修会 みんなで支え合う ネットワークの大切さを考える

二月二十六日と二十七日の二日間、休暇村南阿蘇で郡内の町村から三十九名のホームヘルパーの皆さんが集まり研修会が行われました。これは日頃のホームヘルプ活動の益々の向上を目指したもので、県事務所の高本地域福祉係長の講演や各町村のホームヘルプからの事例発表や意見交換会もありました。

高本係長の講演では「人間関係と信頼関係が整うことから、血の通った思いやりのあるケアができるのです。ホームヘルプ利用者の皆さんには『お世話になって申し訳ない』という負い目の心理があります。ですから『してやっつて』という考えでは絶対に信頼関係はつくれません。そして、ヘルパーの皆さんは一人で悩まず、地域福祉に関わるみんなのネットワークで、その事例毎に一番適した対応策を考えていかなければならないのです。」と話され、福祉面だけではなく、地域全体での連携の重要性と、「ケアのプロ」としての誇りと自信を持つことの大切さも強調されていました。

本町のホームヘルパー制度導入は昭和五十一年の家庭奉仕員制度から始まっており、三月末日現在で四名の皆さんが日々の活動に努力しているところです。研修会の意見交換会でも「相手の気持ちになった素早い対応が大切」「高齢者サービス調整チームにも参加してネットワークを大切にしたい。もちろん責任のたらい回しにならないようにしなければならぬ」「役場や福祉関係だけでなく、日頃接する隣近所はもちろん、他分野の人たちによる地域ごとの小さなネットワークも欲しい」などの意見が聞かれました。



幸せに生きたい

私たちはみな幸せに生きたいという願いを持っています。

この願いは、お互いの人権が尊重されることによって、はじめて実現できるものです。日本国憲法では、すべて国民は基本的人権を尊重され、差別されないことが規定されています。

しかし、私たちの身のまわりには、部落差別をはじめいろいろな差別がありますが、このような現実を「自分には関係ない」「私は差別などしていない」と考えている人もいます。

お互いの人権を尊重するという考え方が私たちの生活の中にどれだけ浸透しているか、今一度見つめてみましょう。

差別することは決して許されるものではありません。しかし、私たちの心の中には、差別意識があるといわれています。私たちはこの差別意識に気づいていないのです。

差別意識がつけられる要因として、予断と偏見があります。日常の生活の中で、予断と偏見にとらわれることなく、真実を正しく学びとり、行動することが大切です。

私たち一人ひとりが、自分の差別意識に気づき、差別心をなくす努力を積み重ねていきたいものです。

高森町同和教育推進協議会



高森高校で手話教室

気持ちを理解し合う 大切さ、心の交流の 大切さも学びました



先月号で開講のお知らせをした高森高校の手話教室。3月15日土曜午後2時からの同校図書館での手話教室に町内外からたくさんの人が参加しました。

この教室の講師として来町されたのは熊本聴覚障害者福祉センターの小野尚寿さんと奥さんの眞理子さん。お二人は深い知識と実践を生かして、手話講習会や手話通訳など聴覚に障害がある方々の福祉の向上のため幅広く活躍されています。この日は手話の実技指導だけでなく、聴覚に障害がある方々の心理を紹介しながら、心を理解し合う重要性和コミュニケーションの大切さも教えていただき、参加された皆さんはユーモアを交えたお二人の話に熱心に聞き入っていました。

高森高校では今後も地域の文化と生涯学習の向上を目指して様々な活動が続けられていきます。この手話教室などでの取り組みはもちろん、真のボランティアのあり方や地域で助け合う大切さについて、具体的に考え実行する方策を検討されています。



手話教室後、小野さんご夫妻を町の3人の女性が訪ねて歓談。この方々は瀬井真美さん・下田小百合さん（共にJA阿蘇南・野尻中央支所）と古木芳さん（青山製作所）。一昨年から手話を学んだという3人は手話で自己紹介しながら、「せっかく覚えた手話を何らかの形で生かしたい。手話サークルなどで、広がりのある継続的な取り組みをしたい。」と話され、小野さんご夫妻に助言を求めたものです。小野さんたちは瀬井さんたちの理解とバイタリティーに感謝されていました。町や社会福祉協議会でも、民間ボランティア育成に取り組んでいるところです。こういったまちの一人ひとりの力を掘り起こし、認め合い誇り合いながら、明るいやさしいまちづくりに生かしていくことにしています。

小野眞理子さんの講演要旨

一口に聴覚に障害があると書いても、その程度や生い立ちには色々な違いがあります。幼い時からの「音の世界」をまったく知らない「ろう者」から、難聴者、ケガや病気が原因で中途失聴者、盲ろう者、知的障害を合わせ持った重複重度聴覚障害、そして皆さん誰もがなるかも知れないという高齢性難聴者まで色々です。

したがって、このそれぞれの違

いによって、コミュニケーションの方法も異なるのです。たとえば「ろう者」は手話（特にろう者独自の日本手話）を使いますし、高齢性難聴者は手話はほとんど使わず、筆記や補聴器を使うなど色々な違いがあります。そして、コミュニケーションや情報を受ける上で不利な面があり、社会参加、自立、物事の判断などでの壁があることを知ってください。そして、何と言っても聴覚に障害がある者はコミュニケーションを望んでいることも解

てください。「聞こえないから話さなくても良い」ではなく、誰とでも気兼ねな対話と交流を望んでいるのです。要は理解し合う気持ちを持つて出来ることから具体的に実行することが大切であり、その手段として立派な言語である手話をお互いに学び合って発展させたいものです。

コミュニケーションの大切さは、お年寄り、家族、社会など、すべてに言えることです。みんなの優しい思いやりで、明るく楽しい社会をつくりたいですね。

高森高校には手話に関する書籍が多数あります。もちろん貸し出しいたしますので、お気軽に図書館の一般開放をご利用ください。

◆開館日時

月・金曜（祝祭日を除く）の午前九時から十二時と、午後一時半から四時半まで。

借り入れの方法など図書館の一般開放の内容は本誌の平成七年十月号をご覧ください。その他詳しいことは、高森高等学校

TEL 2・0185まで、お気軽にどうぞ

町海外ホームステイ事業

中・高校生カリスperl研修レポート

最終回



グレイシャー国立公園での風景。こんな素晴らしい景色が至る所で見かけられた。

まちの次代を担う子どもたちの視野を広げ、真の国際人を育てようと、町では平成八年度から海外ホームステイ事業（モンタナ州カリスperl市）を始めました。平成八年度はこの研修に中学生二名と高校生三名が参加し、それぞれに心を通わせる有意義な研修が行われました。一人ひとりが感じたレポートを、昨年十二月号から五回にわたって連載し、今月号が最終回となります。



高森高等学校 三年 瀬井 久恵

長い間、真っ白な雲と銀色に光る海しか見ることのできなかった飛行機の下に、雲の切れ間から陸が見えてきた。白い砂浜に打ち上げる白い波、砂浜の奥に広がる緑の森。『あれがアメリカかな?』この時まで、まだアメリカにきたという実感は湧いて来なかった。しかし、いざ空港に着いてみると、実感が湧かないなどと言っている状況ではなくなった。足早に通る人々など見渡す限り日本人の姿はなく、外国の人ばかり。アメリカにきたんだ!という実感が一挙に押し寄せ、心の余裕がいままカリスperlの地に降り立った。

なあって、最後の一日をホテルに泊まるというスケジュール。さて、明日はいよいよホストファミリーと対面するという前夜の夜。私は期待と不安でなかなか寝つけなかった。おまけに体調を崩してしまい、これからのホームステイは大丈夫だろうかと思ふ不安になっていた。ところが、ホストファミリーのマイク・ラデルさん一家の優しい微笑みを見たとき、不思議に心が落ち着いてきた。そして、二人の小さな姉妹が抱きついてくれたとき、もう大丈夫だと今までの緊張が嘘のようになつていった。

日本人とは自分のことより他人のことをまず大切にしようという心がありません。これが「謙譲の美德」の根底にある精神とも言えるもので、こう言ったら相手は間違いで、どう言ったら相手が間違っているのか?と心配するのは?と考えると、言いたいことも遠慮して自分の考えを抑えてしまうというものです。この「静と受け身」の文化は日本人文化の一つの良さではありますが、残念ながら外国の人には受け入れられにくいのが実状です。『書くと一言いっぱなしの無責任さよりも謙譲の美德は良いことだ。』という考えも出てきますが、それは『遠慮せず、何にでも思ったことは言い合ひ、話し合いの中でお互いが良い方向に向かうのではないか。』というのが多くの外国人の考え方なのです。もちろん、言いたい放題の無責任さは絶対いけないことと認識しながら、何でも遠慮しないで表現することが大切であり、何も言わないと何を考えているのかわからないと誤解されることになるのです。

「謙譲の美德」は日本人の謙虚さとして誇りに持ちながらも、外国の人と接する時は当然相手への思いやりは持ちながら、気軽に接することが大切です。もちろん、相手の外国の人にも日本人の「謙譲の美德」を理解しようとすることも大事であり、これが本当の「相互理解」の精神だと言えます。そういつた優しい思いやり、心、相互に認め合う精神による産業や経済の交流は、相互に真の発展をもたらす、世界平和にもつながります。本町が進めている国際交流は「まちづくりは人づくり」からという基本姿勢に基づいた明確な目標によるもので、その具体的な取り組みは他に誇れる素晴らしいものです。

日本人と外国の人の考え方の違い 「謙譲の美德」は外国では通じないか?

国際交流はなぜ必要? 優しい心を育む国際交流 島国日本に先祖代々永く住む私たち日本人は、異国の文化風習に慣れ親しむ機会が少なかったことから、外国との付き合い方が不得手な民族だと言われます。



ホームステイでお世話になったラデルさん宅の一番下のケイランちゃん。やんちゃでとっても可愛い。



ダグラス市長自ら、ハンバーグを焼いていただく。

次女ケイランという五人の兄弟姉妹で、お父さんとお母さんのジェニーさん合わせて七人家族。お世話になった一週間は毎日楽しく、何をしたのか今でもはっきりと覚えている。その中で一つだけ紹介するとしたら最後の日の朝のことである。ラデルさん一家と過ごす最後の日。この日が必ず来るとはわかっていて、心のどこかでここでの生活がまだ続くように望んでいた。

この研修を通じ、今まで考えたこともないようなことを考えたり、今までしたことのないようなことを実際に体験できたあの一週間は何物にも代え難い素晴らしい私の財産になりました。ラデルさん一家はもちろん、平成七年一月に高森に来られたダグラス市長と経済開発公社代表のキャロルさん、その他色々な交流でお世話になったカリスperl市のたくさんの方々、この研修をつくっていただいた町や教育委員会、そして行かせてくれた両親に心から感謝したいと思います。皆さん本当にありがとうございました。



今年も子ども英語劇を公演

子どもたちも練習に頑張っています
4月26日(土) 午後3時 高森中体育館
お誘いあわせで ご来場ください



今年はオズの魔法使いを上演



みんな、帰りに帰らない心境で記念撮影。(市長宅でのお別れパーティー)

急に悲しくなってきた。涙がこぼれる前にあわてて窓の外をにらむように見つめる。この日が来ることはわかっていただけたけれども、やっぱりこの時も信じたくないことだった。悲しさと共に私がこの時考えていたのは、今こうやって六人が同じ車に乗る、同じ目的地に向かって進んでいく。

この研修を通じ、今まで考えたこともないようなことを考えたり、今までしたことのないようなことを実際に体験できたあの一週間は何物にも代え難い素晴らしい私の財産になりました。ラデルさん一家はもちろん、平成七年一月に高森に来られたダグラス市長と経済開発公社代表のキャロルさん、その他色々な交流でお世話になったカリスperl市のたくさんの方々、この研修をつくっていただいた町や教育委員会、そして行かせてくれた両親に心から感謝したいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

人権尊重の優しい人づくり・まちづくり
実体験から学ぶ 認め合い助け合う心
外国を特別な目で見ない 気軽な交流

青年海外協力隊員 募集説明会

派遣のシステムや待遇などを詳しく説明します。会場に直接お越しください。
◆日時・場所 4月15日(火) 午後6時半 熊本市国際交流会館
5月22日(木) 午後6時半 熊本市産業文化会館
◆問い合わせ 熊本県総務部国際課 096-383-1111 内線3190番

大韓民国・中華人民共和国への派遣研修 団員募集
ヤングネットワーク ウィング97

国際的視野を広め、郷土の姿を正しく理解して地域や職場、学校でリーダーとなる青年を育成するために海外派遣研修を行います。
◆参加対象 県内に居住する20歳以上30歳未満の者(4月1日現在)
◆募集期間 4月1日から5月15日 ◆個人負担金 73,000円
◆研修期間 8月23日(土)~8月31日(日)
◆問い合わせ 応募先 熊本県 県民生活総室 096-383-1111

熊本県少年の会(沖縄) 団員募集

◆参加対象 県内に居住する小学5・6年生 中学生
◆募集期間 4月14日~5月9日 ◆個人負担金 45,000円
◆研修期間 7月20日(日)~7月25日(金)
◆問い合わせ 熊本県 県民生活総室 096-383-1111
◆応募先 高森町教育委員会 2-1111

その他、熊本県少年の会(8月8日から11日まで諫早少年自然の家で研修小学5・6年生と中学生対象)もあります。詳しいことはおたずねください。



「燃える若きやもた」「おぼれたといつしよ」「動物は友だち」登場者募集中。

一般の方の肥後狂句、短歌、俳句、詩などの作品もお寄せ下さい。



高森高校で百人一首大会



大熱戦のかるた札のとり合い

三月十八日午後一時半から、高森高校（高宗法夫校長）で百人一首大会が行われました。これは、同校の国語授業の一環として昨年から行われているもので、百人一首を通じて言葉や文字の大切さを理解して気軽に親しもうというものです。今年には特に地元高森の「百人一首の会」（代表弥永路さん他、会員十二名の皆さん）との交流を目的とした対戦を企画されましたが、当初計画の二月一日が降雪があり、その後計画された二月二十四日と三十一日も再び降雪があつて伸び伸びとなり、この日やっと実現しました。対戦は「源平合戦」方式で行われ、相手の組のかるたを取り合つて勝ち負けが決まるといふもの。担当の鶴本先生が読み手となり、生徒と「百人一首の会」の皆さん、そして現三年生と二年生の一組五、六名の六十組の真剣勝負が続き、一枚一枚の取り合いに一喜一憂。会場の同校体育館では大きな歓声があがり、みなで楽しい交流の一時を過ごしました。

肥後狂句

如月

（阿蘇御神火会）

文芸

POETRY PAGE



俳句

（高森菜の花句会）

すぐそこに春を伴い今日の雨
目を留めて山ふところの梅早し
春を待つ心は一つ里住い
手を休め次の声待つ初音かな
窓により春雨みつめリユックの児
思いつき髪をショートに春の風
春の風類につめたく暖かく
アパートの一部屋占めて雛飾る
すれ違う人フリージアの香を残し
春耕に根子近づけし畑の景
東風強し吾子のスカート舞上げて
早春も一緒に配りし郵便夫

弥永 ふき
内田 フミ
吉井千恵子
桐原 寿
山村ふみ子
林 久恵
古庄 泰子
平田り子
馬原 要子
岩下 扶美
渡辺 恵
勝木 良子



子ども劇団来演

上色見小学校
2月8日

熊本市の小学生ボランティア劇団「マスカット」 本当の美しさとは何かを問いかける

二月八日の土曜日午後二時から、熊本市の清水小の子どもと保護者で組織されたボランティア劇団「マスカット」による「鏡よ鏡」の公演が上色見小体育館で行われました。
これは同校のPTAが企画したもので、この日は十一名の子どもたちが来町しました。劇の内容は白雪姫をもじったもので、主人公の「白雪姫」が人間にとって一番大切なものは、顔や姿の美しさではなく清らかな心であることに気づき、それまで自分の心を操っていた鏡（魔女）と戦って勝利するというもの。
同劇団は福祉施設などでボランティアによる公演を活動に行っており、今後も感動を与えられるように頑張りたいと演じた皆さんは話していました。
公演後は上色見小の児童たちと交流。演劇のお礼として同小児童（現中学一年）による歌とバンド演奏もありました。卒業を間近の六年生七人は練習を始めて間もないにもかかわらず、リズム感溢れる素晴らしいサウンドで観客の皆さんを魅了。手拍子と大きな拍手で会場一体となった演奏が繰り広げられました。



みんなのひろば

LOCAL EVENTS



上色見小の「なないろノンノン」もバンド演奏を披露

郡学童バドミントン大会
二月十六日（日）午前十時
阿蘇町総合体育館
大会成績
四年生男子シングルス
▽優勝 甲斐賢史朗（高森）
▽二位 白石有介（高森東）
▽三位 野尻遠太（高森東）
四年生ダブルス
▽二位 安藤一樹・野尻遠太（高森東）
▽三位 甲斐賢史朗・林一将（高森）
五年生ダブルス
▽三位 岩下大志・津留健寿（高森）
六年生ダブルス
▽二位 白石勝也・米澤徹朗（高森東）
▽三位 石田宗一郎・津留孝真（高森）
剣道大会結果
県剣道道場連盟学年別個人大会
二月九日（日）熊工大体育館
四年生男子の部
▽優勝 木津京三
▽敢闘賞 木村允哉、石坂彩
南部五か町旗剣道大会
二月十一日（火）久木野中体育館
▽三位 木村允哉・石坂彩・池勇介・野尻昭太・山田一貴
第七回防火剣道大会
三月二日（日）阿蘇町体育館
団体
▽優勝（安方裕一・木津京三・高木陽一郎・植田雄貴・木村勇太）
個人
▽優勝 木村勇太（六年）
▽三位 高木陽一郎（六年）
第二十二回春日剣道大会
三月二日（日）浜線健康パーク
二年生以下の部
▽準優勝 石坂彩

